

令和５年度 全国学力・学習状況調査結果の分析

山北町教育委員会

令和５年度全国学力・学習状況調査が、令和５年４月１８日に全国の小学校６年生及び中学校３年生の全児童・生徒を対象に実施されました。

この調査は、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的にしています。

その結果が、８月に文部科学省から送られました。学校は、教科ごとに児童・生徒一人ひとりに個人票を返すとともに、全体の結果を分析したうえで指導と改善に努めています。

【教科に関する調査】

教科による内容項目において県公立学校と比較したところ、良好な点及び課題点は次のとおりでした。なお平均正答率では、中学校国語は県平均と同程度、数学、英語においてはやや低い状況でした。小学校では国語、算数において県平均と同程度の状況でした。

《小学生》

○国語 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめて書く問題がよくできていました。友だちの意見を聞き取り、自分の考えを広げていく対話的な学習の実践や、授業の振り返りに自分の考えを書きまとめる学習の成果が表れています。一方、学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことには課題が見られました。

○算数 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める問題については、高い正答率でした。また、正方形の意味や性質についてもよく理解していました。一方、百分率で表された割合に関する問題に課題が見られました。示された基準量と比較量から割合が３０％になるものの選択に戸惑っている様子が伺えました。また、（ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る問題に課題が見られました。

《中学生》

○国語 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめて書く問題についてはよく書けていました。言葉の特徴や使い方に関する事項についてはよく理解しており、県平均を上回りました。レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図を選択する問題に誤答が多く、読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることに課題が見られました。また、文章の構成や表現の効果について、現代語と古典を比較して書くことに戸惑いが見られました。

○数学 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかの問いについては、比較的高い正答率が見られました。一方で、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することの正答率が低い結果となりました。また、記述式の問題に対しての無解答が目立ちました。知識・技能面での課題が見られました。

○英語 社会的な話題に対して短い文章の要点を捉えることは比較的できていました。しかし、それに対しての自分の考えとその理由を書くことに課題が見られました。また、ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する問題の誤答が多くありました。情報を正確に読み取ること力をつけていくことが必要になります。話すことに関しては、疑問文の特徴を理解して、その知識をやりとりの場面において活用することに課題が見られました。

【児童・生徒質問紙調査】

生活面や学習面に関する質問が、小学校63項目、中学校80項目で行われました。ほとんどの児童・生徒が「いじめはどんな理由があってもいけない」と考えており、人権意識の高さが見られます。

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、小学校では肯定的に答えている児童が多く、学校生活を前向きに捉えている様子が見られます。一方中学生になると否定的に答える生徒もあり、学習だけでなく行事等も含めて、生徒が充実感を感じられるようにしていく必要があります。

令和4年度より町が推進している「0歳から15歳までの一貫教育・保育」で大切にしている「自己肯定感」に関わる質問では、「自分にはよいところがあると思いますか」に対し、多くの児童・生徒が肯定的な回答をしています。また、「非認知能力」に関わる質問の「人が困っているときには進んで助けている」について肯定的に答えている児童生徒が多く、仲間を思いやる気持ちが育まれていることが伺えます。乳幼児期から大切にしてきた「自己肯定感」や「非認知能力」に関わる育ちが、小・中学校へと引き継がれてきた成果だと考えられます。今後も、園・小・中の連携を引き続き深めていく必要があります。

国語や算数・数学について、学習の大切さを感じている児童生徒の割合は高く見られました。一方、休日の学習の時間については1時間未満の児童生徒が多く、家庭学習の在り方について考えていく必要があります。

地域の行事への参加や、地域や社会をよくするために何かをしたいと答える児童生徒が多くいました。自分たちの地域に積極的に関わり、よりよくしていこうと考える郷土愛の気持ちをこれからも大切にしていきたいと考えます。

【今後の取り組み】

- ①園・小・中学校の教職員が、互いの教育・保育について、より深い理解と子どもたちにどのような力がついたのかという視点で検証し、授業改善に取り組みます。
- ②乳幼児期の教育・保育で大切にしてきた「非認知能力」を、小中学校とも連携して育んでいけるように連携教育のさらなる充実を図ります。
- ③学習や読書の習慣化の一環として、家庭学習の重要性について再認識し、学校全体で共通理解を図って取り組みます。
- ④小中学校ともに、基礎的な知識技能等の確実な定着に向けた学習について取り組みます。
- ⑤山北スタンダードカリキュラムにある「受け取る力」「伝える力」を踏まえた指導方法の工夫や授業づくりに取り組みます。